　先生が事故で亡くなってからまだ半年しか経っていないということが 信じられない。みんな、悲しんだのは最初だけ。今はもうすっかり、先生なんて元からいなかったみたいに日常に戻ってる。私はまだ先生がいない現実が受け入れられないのに…… 先生、なんで死んじゃったの？また先生に会いたい 。父親は仕事でほとんど家にいないし母親も自分のことばっかり。友達も全くできなくて、学校生活に馴染めなくてなかなか居場所ができなかった私に本が好きだったらと図書委員になることを薦めてくれた。そのおかげで、学校に私もいてもいいんだと思えるようになった。でも先生はもういない。いない世界に私がいる必要はない 。そう思ってた時 、図書室でとても古い本を見つけた。そこに書かれていた内容はとてもじゃないけど、非科学的で簡単には信じられないものばかりだった。だけど人の魂の存在とその固定方法、という呪術。今のわたしにはとても魅力的に思え、すがりたくなった。そんな夢物語でもまた先生に会えるなら私は試したい。多少の犠牲はしょうがない。

◆ 魂の固定方法について

　① 　エネルギー：本によると、魂の固定には外部からのエネルギー補給が必要らしい。外部エネルギーには雷などの自然エネルギーを始め、いろいろあるようだ。その中で学校という場所を考えると、人の感情エネルギーが最適だと思った。儀式で学校に怪異の噂を作り出す。噂はいつか本物の怪異となり、それを聞いたり、体験した人たちの怖い、気味悪いと思う感情。そのエネルギーを先生と私の魂を学校に固定するエネルギーとしよう。

　② 　魔法陣：怪異の噂から生み出されたエネルギーを魂に補給するための魔法陣を学校に描かなくてはいけない。

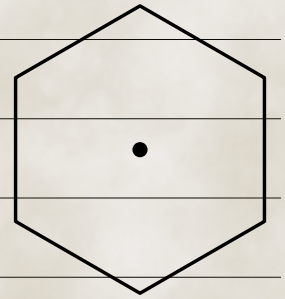
　「七」という数字は呪術的に特別な数字だと本に書かれていた。七不思議が完成する時に、魔法陣が完成するようにしよう。完成までにちょっと時間がかかるけど一度完成したら学校が存在する限りエネルギーは永遠に補給されることになるはず。

③　裏掲示板の活用

私が死に、生贄になることで先生が亡くなった化学実験室を含む六つの怪談話を作り出す儀式はできそうだ。

ただ七番目だけは、魔法陣を完成させるために強いエネルギーが必要になる。

それには私以外の生贄が必要になる。……生贄を選ぶのに瑞無高校の裏掲示板を使おう。本に、情報を開示することは呪術的に生贄選定の一環になるとあった。裏掲示板に少しずつ、ヒントを残そう。注意深く情報を整理すれば、賢い人なら気づけるはず。すべてを知ったのにその先を覗くことを止められなかった好奇心の強い人。

そんな人こそ生贄にふさわしいと私は思う。

ここまで辿り着いたあなたらなら「校内配置図」を見れば七番目の場所がわかるはず。……先に進むならだけど。